

ふらのコミュニティレポート

FURANO COMMUNITY REPORT



▲夜間、生涯学習センターを会場に、汗を流す参加者。▶シーズン終了後の表彰式。写真は1部優勝チーム

Furano futsal league

ふらのフットサルリーグ

富良野の冬のスポーツに定着 老若男女、市町村の垣根越え



富良野の冬のスポーツとして、おなじみの屋内サッカー「フットサル」。9月中旬から2月中旬まで行われる「ふらのフットサルリーグ（奥田俊二運営部長）」は平成15年に発足し今年で9シーズン目。生涯学習センターの体育館を会場に34チーム500人もの地域住民が汗を流しています。リーグは、現在5つあり、実績や実力に合わせて振り分けられます。下は5歳から上は57歳、女性は57人が参加し、また、遠くは上富良野町や南富良野町から参加するチームもあり、まさに老若男女問わない、市町村の垣根を越えた冬の生涯スポーツへと成長してきました。発足について奥田運営部長は、「富良野でも気軽にサッカーを楽しむ環境をつくりたくて、市職員の有志で企画し、運営を開始しました。最初は1日開催のトーナメント戦から始まり、それを継続させていく中で徐々にリーグ戦開催の機運が高まってきました」と当時を振り返ります。設立当初から200人が参加し、その3年後には、5

00人と、一気に普及していききました。「初心者リーグを増やしたり、子どもや女性も参加しやすいように、試合に1人多く参加できる特別ルールを設けたり、裾野を広げる取り組みを行ってきました」と奥田運営部長。

2年前から参加している北の峰学園の職員チーム「北蹴会」の三好裕太さんは、「職場で話す話題が増え、世代を超えて良いコミュニケーションがとれていると思います」と話します。

今後について奥田運営部長は、「基本は『仲間づくり』。最初からそこはぶれていません。今後その基本を胸に、地域サッカーを発展させていきたい」と話してくれました。

